

飛鳥資料館 冬期企画展「飛鳥の考古学2016 飛鳥むかしむかし 早川和子原画展」

本展示会の中心となるのは、朝日新聞奈良版の連載「飛鳥むかしむかし」の挿絵に使われたイラスト原画です。この連載は、2013年4月から2016年3月までの約3年間、116回にわたって続きました。「飛鳥むかしむかし」は、飛鳥・藤原を舞台に繰り広げられた日本国誕生の歴史を研究者が多角的に解説したもので、挿絵のイラストは復元画家の早川和子さんによって描かれました。

早川さんの復元イラストは、単なる想像図ではありません。執筆担当者と早川さんが何度も打ち合わせを重ね、発掘調査の成果や出土遺物、文献資料等から可能な限り復元の根拠を探し出し、それを絵に盛りこみました。もちろん構図やシチュエーション、人々の表情や動作には、早川さんの遊び心が満ちあふれ、そのイラストからは、人々の笑い声や、飛鳥に吹きわたる風の音まで聞こえてきそうです。

展示では、「飛鳥むかしむかし」に掲載されたイラストのカラー原画と、新たに描かれたイラストを多数ご覧いただけます。この冬は、飛鳥資料館で早川和子さんの復元画の世界をお楽しみください。
(飛鳥資料館 小沼 美結)



飛鳥のイメージ

会 期：2017年1月24日(火)～3月20日(月)月曜休館(3月20日開館)

開館時間：9:00～16:30(入館は16:00まで)

ギャラリートーク：3月12日(日)、3月18日(土) 10:30～、13:30～

ホームページ：<https://www.nabunken.go.jp/asuka/> お問合せ：☎0744-54-3561(飛鳥資料館)

平城宮跡資料館 展示紹介「第一次大極殿院の模型」

平城宮跡資料館では、奈良文化財研究所がおこなった調査で出土した遺物や建物の復原模型を展示し、平城宮跡の歴史や発掘調査の過程、平城宮内にあった役所や宮殿の内部、当時の役人の仕事の様子等を紹介しています。

官衙復原展示コーナーには、第一次大極殿院の100分の1模型を展示しています。この模型は1993年に、第一次大極殿復原研究の過程で作成されました。現在も発掘調査や文献史料の検討を続けており、復原された大極殿は二重基壇で、正面の階段は一つであること等、異なる点がみられます。また現在検討を進めている南門やその東西楼についても最新案では、南門は単層、東西楼は入母屋造りとなっています。さらに、大極殿の手前の7本の幢幡(儀式用の旗)についても、少なくともこの位置にないことが近年の発掘調査によって判明しています。

復原事業情報館には200分の1模型が展示されていますので、ぜひ見比べて、研究の進展と復原の難しさを感じ取っていただければ幸いです。

(企画調整部 三輪 仁美)



常設展示
第一次大極殿院1/100模型

■ お知らせ

平城宮跡資料館春期企画展

2017年2月4日(土)～4月2日(日)

「発掘速報展 平城2016」

■ 記 録

文化財担当者研修

○地質・年代調査課程

2016年9月26日～9月30日 8名(聴講生含む)

○保存科学I(金属製遺物)課程

2016年10月11日～10月19日 10名

○土器・陶磁器調査課程

2016年11月14日～11月18日 16名

○文化財写真課程

2016年11月28日～12月8日 12名

○報告書作成課程

2016年12月8日～12月16日 19名

飛鳥資料館開館 秋期特別展

2016年10月7日(金)～12月4日(日)

「祈りをこめた小塔」 9,373名

平城宮跡資料館秋期特別展

2016年10月15日(土)～11月27日(日)

「地下の正倉院展 式部省木簡の世界—役人の勤務評価と昇進—」 17,653名

第119回公開講演会

2016年11月5日(土)

於：平城宮跡資料館 234名

第8回東京講演会「飛鳥むかしむかし」

2016年11月13日(日)

於：一橋大学一橋講堂 447名

現地説明会等

○飛鳥藤原第189次発掘調査(藤原宮朝堂院朝庭)

2016年10月2日(日) 1,315名

○東大寺東塔跡

2016年10月8日(土) 1,125名

■ 最近の本

○『飛鳥むかしむかし 国づくり編』

朝日新聞出版 2016年10月

○『平城京のごみ図鑑』

(株)河出書房新社 2016年11月

編集 「奈文研ニュース」編集委員会

発行 奈良文化財研究所 <https://www.nabunken.go.jp>

Eメール jimu@nabunken.go.jp

発行年月 2016年12月